2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日　2004 年　1 月　31 日

Ⅰ　概要

実践団体・担当者名	東京都葛飾区立東金町小学校　（担当者：　山田恵子･石田麻紀　）	
連絡先	電話　０３-3627-1411	
プランタイトル	「守るぞ命！自分に何ができる？」 地震に自信、やってみよう災害シミュレーション	
目的	防災について興味を持ち、学習を通して、児童が主体的に考え、解決すること。	
プランの概略	導入では防災に対する知識・意識面においての認識が薄いことや災害の恐ろしさに気づかせ、防災学習の必要性を実感させる。その後、「つかむ」段階において、行政や消防署、ボランティア等の専門家の講話やまちあるき、消火体験などの体験学習を実施する。「追究する」段階において、災害時に自分たちに何ができるかを考え、児童が自らの研究課題を決定し、グループごとに調べ学習を通して深く追究する。最後に、「広げる」段階において、調べ学習で追究した内容を発表し、他の児童と共有するとともに、災害シミュレーションとして、起震車体験や、消火体験を実施する。 ９月～10 月：つかむ段階（地震のメカニズム、区役所防災課講話、ＮＰＯ講話、消防署講話、防災館、まちあるきなど） 11 月　　：追究する段階（調べ学習） 12 月　　：広げる段階（中間発表、災害シミュレーション、本発表）	
プランの対象と参加人数	小学校４年生 43 名	
実施日時	平成 16 年９月～12 月	
主な実施場所	学校内及び周辺地域	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①葛飾区防災課 ②防災を考える若き市民の会 ③東京消防庁金町消防署 ④社団法人再開発コーディネーター協会 ⑤金町消防団 ⑥東京消防庁災害時支援ボランティア ⑦東京大学工学部都市工学科研究生
	連携したきっかけ・理由	①～⑥講師として依頼 ⑦協力者
	連携団体へのアプローチ方法	①当方から連絡をとり、依頼した。 ②以前から面識があり、依頼した。 ③当方から連絡をとり、依頼した。 ④著作をたよりに連絡をとり、依頼した。 ⑤③を経由して依頼した。 ⑥③を経由して依頼した。 ⑦先方から協力依頼があった。

	連携団体との 打合せ回数	①1 時間×1 回（講話内容打合せ） ②電話による打合せ。（講話内容打合せ） ③１時間×３回（講話内容打合せ） ④２時間×３回（まちあるき打合せ） ⑤、⑥、⑦なし。
	連携団体との役割分担	①～③講話 ④まちあるき・防災マップ ⑤、⑥起震車体験、消火器体験指導 ⑦全般

Ⅱプラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	３名
	外部スタッフの総人数	０名
	主なメンバーの役職・役割	責任者　小口　榮壽（葛飾区立東金町小学校校長） 企　画 渉　外 実　施 山田　恵子（同校教諭） 石田　麻紀（同校教諭）
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2004 年　4 月　～　2004 年 8 月
	立案時間	約 20 時間
	上記のうち打合せ回数	約 20 回
プラン立案で注意を払った点工夫した点	○　昨年度の実践における対象が 6 年生であったため、内容や方法が 4 年生に適したものとなうようにしたい。 ○　外部機関との連携、特に地域との連携を図るようにしたい。 ○　さまざまな体験を通して学べるようにしたい。	
プラン立案で苦労した点	○　小学校 4 年生に適した内容がどのようなものかがつかみにくかった。 ○　最終的なアウトプットのイメージが難しかった。 ○　各外部機関の連絡先や連絡方法等が分からなかった。 ○　校内他行事との調整が難しかった。	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	３名
	外部スタッフの総人数	０名
	主なメンバーの役職・役割	責任者　小口　榮壽（葛飾区立東金町小学校校長） 企　画 渉　外 実　施 山田　恵子（同校教諭） 石田　麻紀（同校教諭）
準備に要した日数・時間	準備期間	2004 年　4 月　～　2004 年 12 月
	準備総時間	約 40 時間
	上記の内打合せ回数	約 20 回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	①兵庫県教育委員会 ②神戸市教育委員会
	どのように働きかけたか	①電話にて資料送付を依頼。 ②電話にて資料送付を依頼。
	結果	①防災教育副読本『明日に生きる』を送付してもらった。 ②防災教育副読本『幸せ運ぼう』を送付してもらった。
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	①金町消防団 ②東京消防庁災害時支援ボランティア ③シルバー人材センター

	どのように働きかけたか	①、②金町消防署を通して、依頼した。 ③直接依頼した。
	結果	①、②授業（起震車体験、消火器体験）において講師として指導をいただいた。 ③児童が学校外へ出る際に、交通安全等に協力していただいた。
保護者・ＰＴＡへの働きかけ	働きかけた保護者・ＰＴＡ組織名	児童の保護者
	どのように働きかけたか	保護者の協力が必要な授業の前に文書で協力者を募った。
	結果	児童が学校外へ出る授業（まちあるき、本所防災館など）の際の付き添い及び、アルファ米炊き出しなどの授業の補助をしていただいた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	①スクリーン、プロジェクター、ＰＣ等 ②まちあるき関連 ③防災教育副読本 ④支え合い守り合うひとづくり-すぐに役立つ防災教育事例集
	入手先・入手方法	①学校内の機材を活用した。 ②社団法人損害保険協会の「ぼうさい探検隊」に応募し、必要な資器材一式を送付していただいた。 ③上述の通り、兵庫県及び神戸市教育委員会に依頼し、送付していただいた。 ④ＮＰＯ法人キャリア・ワールドより送付していただいた。
	機材･教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	①講話等において講師が使用するため。 ②必要な資器材が揃えられるため。 ③4 年生における指導内容を精査するため。 ④同上。
参加者の募集	募集方法	なし。
	募集期間	年　月　日 ～　月　日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		○関係機関の連絡先（依頼先）が分からなかった。 ○付き添いなどに必要な保護者がなかなか集まらなかった。 ○防災教育の実践事例が少なく、内容を決めづらかった。

Ⅳ　タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月			○　6年生における実践
12月			○　6年生における実践
2004 1月		○　第1回防災教育チャレンジプラン申込	
2月			
3月		○　第1回防災教育チャレンジプランワークショップ	
4月	○　年間授業構成打合せ		○　関連学習社会科「まちの安全を守る」
5月	○　単元全体像打合せ		○　関連学習社会科「まちの安全を守る」
6月	○　単元全体像打合せ		
7月	○　単元全体像打合せ	○　上旬　本所防災館申込（電話）	
8月	○　単元全体像打合せ	○　23日　まちあるき打合せ（社団法人再開発コーディネーター協会） ○　25日　講話打合せ（葛飾区防災課） ○　27日　講話打合せ（金町消防署）	
9月		○　22日　まちあるき打合せ（社団法人再開発コーディネーター協会） ○　上旬　保護者への協力依頼（防災課講話） ○　上旬　社団法人損害保険協会「ぼうさい探検隊」申込	○　1日　避難訓練 ○　2日イメージマップ ○　3日　地震のメカニズム ○　7日　意識知識調査 ○　14日　葛飾区防災課講話 ○　30日　ＮＰＯ講話
10月		○　上旬　保護者への付き添い依頼（まちあるき（第1回）） ○　中旬　保護者への付き添い依頼（本所本所防災館） ○　下旬　保護者への付き添い依頼（まちあるき（第2回））	○　4日　まちあるき準備 ○　5日　消防署講話 ○　5日　まちあるき準備 ○　12日　まちあるき･マップ作り（第1回） ○　26日　本所防災館 ○　29日　まちあるき･マップ作り（第2回）
11月		○　下旬　消防団、災害時支援ボランティアへの依頼	○　1日　マップ発表 ○　12日グループ分け ○　12～29日 調べ学習 ○　30日　中間発表
12月		○　上旬　保護者へ授業参観のお知らせ（本発表）	○　14日　災害シミュレーション ○　21日　本発表
2005 1月			○　報告書作成

Ⅴ実践の詳細　【C．総合的な学習の時間　】（学習の準備段階から授業時間（コマ）毎に記載して下さい。）

コマ	日時	場所	学習内容	教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
1	9月1日 10:30 10:35 10:45 11:00	教室 校庭	「避難訓練」 ①注意事項説明 ②保護者引き渡し	警戒宣言発令とともに、職員室に参集。 注意事項を説明する。 児童と保護者を照会し、児童を安全に帰宅させる。	注意事項を聞く。 安全に帰宅する。	注意事項を理解できたか。 注意事項を守って帰宅できたか。	ヘルメット。	
2	9月2日 8:45 8:55 9:30	教室	「イメージマップ」 ①作業説明	「地震」から連想する言葉を自由に書くよう説明する。	「地震」から連想する言葉を自由に書く。	多くの言葉が書けたか。	プリント	児童が「地震」についてどれほどの認識をもっているかを調べた。
3	9月3日 13:45 14:00 14:30 14:50 15:20	視聴覚室 教室	「地震のメカニズム」 ①地震のメカニズム ・地球の内側 ・プレート ・地震のしくみ ・世界の地震発生地点 ・日本の地震発生地点 ②阪神・淡路大震災 ・阪神・淡路大震災の被害 ・自助・共助の重要性 ③ビデオ視聴 阪神・淡路大震災の記録映像の視聴 ④振り返り	外部講師：東京大学工学部都市工学科研究生 地震の科学的な側面を分かりやすく理解させる。 阪神・淡路大震災を題材に地震の恐ろしさを理解させる。 地震の被害を視覚的に理解させる。 本時の感想を書かせる。	地震のメカニズムを理解する。 阪神･淡路大震災の被害を知るとともに、自助・共助の必要性を理解する。 地震の被害を映像で理解させる。 本時の感想を書く。	地震のメカニズムを理解できたか。 地震の恐ろしさを理解できたか。 自助・共助の必要性を理解できたか。 地震を具体的にイメージできたか。 本時の内容を理解したか。	パワーポイント パワーポイント ビデオ プリント	専門用語を分かりやすく説明する。 地震の恐ろしさだけでなく、自分にできることがあることを理解させる。
4	9月7日 8:45 8:50 9:00 9:15 9:30	教室	「意識知識調査」 ①内容の説明 意識編 地震に対する意識に関する調査。 知識編 地震に対する知識に関する調査。 ②解答・解説 質問の解答及び解説。	回答・解答方法を説明する。 用語を説明する。 用語を説明する。 解答・解説。	意識編に回答する。 知識編に回答する。 点数をつける。	正直に回答しているか。	プリント	以後の学習の動機付けとするため、意図的に点数が低くなるようにした。

5	９月14日 13:45 14:15 14:25 14:35 14:50 14:55 15:10 15:20	備蓄倉庫 教室	「葛飾区防災課講話」 ①備蓄倉庫見学 校内設置の備蓄倉庫を見学し、備蓄物品について学習する。 （写真１） ②区の防災対策 総合防災訓練、地域系無線、地震計、雨量計、葛飾ＦＭ、街頭消火器、備蓄倉庫など。 ③家庭での備え 安全点検、非常持ち出し袋、家族会議、連絡方法の確認など。 ④災害時の学校の役割 避難所運営会議など。 ⑤防災に関する地域の取組み 地域での防災訓練。 ⑥アルファ米試食 備蓄物品のアルファ米を試食する。 ⑦無線機体験 地域系無線の体験。	外部講師：葛飾区防災課 備蓄内容について理解させる。 区の防災対策について理解させる。 家庭での備えの必要性を理解させる。 災害時の学校の役割を理解させる。 防災に対する地域の取組みを理解させる。 アルファ米を試食させる。 代表児童２名に無線機を体験させる。	備蓄倉庫見学。 区の防災対策について理解する。 家庭での備えの必要性を理解する。 避難所について理解する。 共助の重要性について理解する。 おいしく食べる。	興味を持って見学できたか。 静かに話を聞き、内容を理解できたか。 静かに話を聞き、内容を理解できたか。 静かに話を聞き、内容を理解できたか。 静かに話を聞き、内容を理解できたか。 行儀よく食べられたか. 友だちの様子を静かに見学できたか。	備蓄物品 写真・地図 アルファ米 無線機	防災に対して地域で取り組んでいることを理解させるとともに、自助・共助の必要性を理解させる。
6	９月30日 13:45 14:35 15:20	教室	「ＮＰＯ講話」 ①阪神・淡路大震災とボランティア 阪神・淡路大震災の被害と、ボランティアの概要。 （写真２） ②「防災」について 災害を「日常」、「災害」、「救助」、「避難生活」、「復興」、「日常」と時間経過で考え、それぞれで必要な「防災」について考える。	外部講師：松尾知純氏（防災を考える若き市民の会） 阪神・淡路大震災の被害とボランティアの活動について自らの体験をもとに理解させる。 それぞれの段階ででできる防災について考えさせる。	災害の恐ろしさやボランティア活動について理解する。 「防災」とは何かを理解する。	災害の恐ろしさやボランティア・助け合いの大切さを理解したか。 自分にできる防災を考えようとしているか。	パワーポイント 黒板	「防災」について自分にできることを考えさせるため、あえて具体的な「防災」の内容をあまり示さなかった。
7	10月４日 8:45	教室	「まちあるき準備」 ①まちあるき概要説明 まちあるきの実施要領について説明する。 ②グループ分け ２クラスを６グループに分ける。	まちあるきの実施要領を説明する。 ２クラスを６グループに分ける。	まちあるきについて理解する。 グループに分かれる。	まちあるきの概要を理解したか。	地図（大）	

8	10月5日 8:45 9:15 9:30	教室	「まちあるき準備」 ①まちあるき実施要領 グループに分かれて、地域内の「消火器」、「消火栓」、「病院」、「地震のとき危険なもの」、「地震のとき役にたつ物」を探し、地図に記録する。その後、防災マップを作成する。 ②事前会議 グループ内で作戦を練る、係を決める。	まちあるきの実施要領を理解させる。 グループで協力して、作業を進めさせる。	まちあるきの実施要領を理解する。 グループで協力して、作業を進める。	まちあるきの実施要領を理解したか。 グループで協力して効率よく実施したか。	地図（大） 地図（各自）、カメラ	まちあるきの際に児童が着目すべき事項をあらかじめ指導した。
9	10月5日 13:45 14:35 14:50 14:10 14:20	教室	「消防署講話」 ①阪神・淡路大震災 被害、消防署の活動。 ②自助・共助 共助の限界、訓練の必要性 ③ビデオ視聴 発災型防災訓練 ④訓練について 情報収集訓練など。	外部講師：東京消防庁金町消防署指導調査係 阪神・淡路大震災の被害と消防など共助の活動について理解させる。 公助の限界と、自助・共助の重要性について理解させる。 発災型防災訓練のビデオを視聴させ、訓練など日ごろからの準備の必要性を理解させる。 児童主体の訓練が可能であることを理解させる。	阪神・淡路大震災の被害の実態を理解する。 公助の限界と自助・共助の重要性を理解する。 訓練の必要性を理解する。 自分にできることを考える。	阪神・淡路大震災の概要を理解できたか。 公助の限界について理解できたか。 日ごろの準備の必要性を理解できたか。 自ら考える姿勢ができたか。	写真 図 ビデオ	消防署による講話であるがあえて、公助の限界について説明していただいた。
１０	10月12日 13:45 13:55 14:20 15:20	教室 地域 教室	「まちあるき・マップ作り（第１回）」 ①注意事項 まちあるきに当たっての注意事項の説明。 ②まちあるき まちあるき（地域の約半分）を実施。 ③防災マップ作り 防災マップの作成。	外部講師：社団法人再開発コーディネーター協会 各種事故のないよう、注意する。 安全管理及び着眼事項の指導。	注意事項を理解する。 まちあるきを実施する。 防災マップを作成する。	注意事項を理解したか。 安全にまちあるきを実施したか。 わかりやすい防災マップを作成したか。	地図（小）、使い捨てカメラ、ベスト（安全管理用）	降雨のため、残りの部分は次回とした。
１１	10月26日 8:00 9:00 11:00 12:00 12:20	教室	「本所防災館」 ①移動 本所防災館へ移動。 ②各種体験 ３Ｄシアター、消火体験、119 番通報体験、煙体験 ③移動 学校へ移動 ④振り返り 本時を振り返る。	外部講師：本所防災館員 事故防止に注意して、移動する。 館員の指導のもと、各種体験を実施する。 事故防止に注意して、移動する。 振り返りカードに記入させる。	安全に移動する。 各種体験を実施する。 安全に移動する。 振り返りカードを記入する。	安全に注意して、交通機関を利用することができたか。 指示事項を守り、体験に臨むことができたか。 安全に注意して、交通機関を利用することができたか。	本所防災館各施設。	「つかむ」段階の最終段階として防災や災害を実体験させた。

１２	10月29日 13:45 13:55 14:20 15:20	教室 地域 教室	「まちあるき・マップ作り（第2回）」 ①注意事項 まちあるきに当たっての注意事項の説明。 ②まちあるき まちあるき（地域の約半分）を実施。 ③防災マップ作り 防災マップの作成。	外部講師：社団法人再開発コーディネーター協会 各種事故のないよう、注意する。 安全管理及び着目事項の指導。	注意事項を理解する。 まちあるきを実施する。 防災マップを作成する。	注意事項を理解したか。 安全にまちあるきを実施したか。 わかりやすい防災マップを作成したか。	地図（小）、使い捨てカメラ、ベスト（安全管理用）	前回の残りの部分のまちあるき及びマップ作りを実施した。
１３	１１月１日 8:45 9:30	教室	「マップ発表」 ①マップ発表 グループごとに作成した防災マップを発表する。 （写真３）	分かりやすく発表させる。	グループごとに発表する。	分かりやすい発表か。 聞く態度はよいか。	防災マップ（各グループ）	他のグループの発表を聞き、地域全体の防災についての理解を深めた。
１４	11月12日 8:45 9:30	教室	「グループ分け」 ①グループ分け 児童の興味関心から、「自分にできること」３ グループ、「避難所生活」２グループ、「避難場所」２ グループ、「防災グッズ」２ グループ、「備蓄倉庫」２ グループ、「レスキュー隊」１グループを編成	グループに分ける。	グループに分かれる。	グループで協力する姿勢ができたか。		

１５	11月13日 ～ 11月29日 約15時間	教室 視聴覚室 図書室 パソコンルーム 公園 備蓄倉庫 消防署 ほか	「調べ学習」 ①グループごとに調べ学習を行い、発表の準備をする。 （写真４・５）	調べ学習を補助し、最終的に適切な形の発表となるよう指導する。	グループごとに調べ学習を実施する。 ①自分にできることＡ インターネットや書籍を活用するとともに、養護教諭から指導を受け、応急手当について学習。 ②自分にできることＢ インターネットや書籍から情報を収集し、「地震の際の行動」について調査。 ③自分にできることＣ インターネットや書籍から「地震の際の行動」及び「応急手当」について調査。 ④避難所生活Ａ インターネット、書籍及びｆａｘによる質問票の送付により、避難所生活について調査。 ⑤難所生活Ｂ インターネット及びＮＰＯ講話の講師（松尾氏）に対してｆａｘにより質問票を送付。 ⑥避難場所Ａ 近隣の防災公園を見学。 ⑦避難場所Ｂ 同上。 ⑧防災グッズＡ インターネットを活用し、情報を収集。 ⑨防災グッズＢ 同上。 ⑩備蓄倉庫Ａ 校内の備蓄倉庫を見学。 ⑪備蓄倉庫Ｂ 校内の備蓄倉庫を見学するとともに、葛飾区防災課講話の講師に対してｆａｘにて質問票を送付。 ⑫レスキュー隊 インターネットでの検索及び金町消防署でのインタビュー.	グループで協力して調べ学習を進めたか。 見通しを立てて、進めたか。	パソコン、デジタルカメラその他	児童の興味・関心に沿って、調べ学習を推進した。
１６	11月30日 13:45 15:20	視聴覚室	「中間発表」 ①各グループ発表 各グループの発表。	発表をさせる。	各グループが調べ学習で追究した内容について、ポスターや実技の形式で発表する。	分かりやすく発表できたか.	ポスター	

１７	12月14日 13:45 14:20 14:50 15:20	教室 校庭	「災害シミュレーション」 ①消防団・支援ボランティアの活動 消防団及び支援ボランティアの活動について。 （写真６） ②災害シミュレーション 起震車体験、消火器体験。 ③振り返り 本時を振り返る。	外部講師：金町消防団、東京消防庁災害時支援ボランティア、東京消防庁金町消防署員 消防団及び災害時支援ボランティアの活動に付いて理解させる。 起震車、消火器の体験をさせる。	消防団及びボランティアの活動を理解する。 起震車、消火器を体験する。 振り返りカードに記入する。	地域の消防団やボランティアの活動について理解できたか。 ふざけないで、安全に体験できたか。	起震車、訓練用消火器	本所防災館で体験できなかった地震体験をすることで、地震の揺れを実感させる。
１８	12月21日 13:45 16:00	視聴覚室	「本発表」 ①各グループ発表 各グループが調べ学習で追究した内容を発表する。発表内容は中間発表時とほぼ同様。 （写真７） ②振り返り 本時を振り返る。	分かりやすく発表させる。	各グループが交互に発表する。	中間発表と比較して、改善されたか。 分かりやすく発表できたか。 他のグループの発表をしっかり聞くことができたか。	ポスター	保護者にも参観してもらった。

Ⅵ実践後

参加者へのアンケート結果	単元開始前と終了後に家庭に対してアンケートを行った。その結果、次のような傾向が見られた。 ①防災に関して家庭内で話し合いを持ち、災害時の連絡方法や避難方法について確認する家庭が増えた。 ②地域の防災訓練に参加する家庭が増えた。	
成果として得たこと	①振り返りカードへの感想などから、児童の災害や防災に対する知識や意識が増し、積極的に行動しようとする態度が身についた。 ②地域住民（消防団、ボランティア、保護者など）や地域の各機関（葛飾区、金町消防署など）と連携することにより、地域の一員として学校が防災に果たすべき役割を確認することができた。 ③さまざまな人と関わりをもちながら学習することで、児童の社会性を向上させ、学習の効果も高めることができた。 ④昨年度の６年生、本年度の４年生と異学年で実践を重ねたことで、発達段階に即した防災教育の実践を蓄積することができた。	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） 別添えのとおり。	
広報方法	広報した先	なし。
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	総合的な学習の時間を活用して、様々な角度から防災教育を学習することで災害や防災に対する児童の興味関心を喚起することができるとともに、防災について積極的に関わろうとする態度を育成することができたことは大きな成果である。 一方で、地域との関わりが消防団やボランティアなど限定されたものとなり、自治会や避難所運営会議などとの関わりを持つことができなかったことが反省点であり、今後、地域との関わりをより深く保持しながら防災教育に取り組んでいくことが課題である。	
今後の予定	来年度以降の進め方	来年度は、これまでの防災教育の取り組みをもとに、より発展した形で実践する予定である。
	是非実施してみたい取り組み	今後はより地域との連携を持って実践していきたいと考えており、地域の防災訓練に学校として積極的に参加していきたい。 また、本年度蓄積した各機関との連絡を保ち、恒常的な防災教育を実践していきたい。